

はじめに

リクルート・消費税・天安門・難民船漂着・ベルリンの壁・マルタ会談などに象徴される国内外の世界史的激動の年を送り、21世紀へあと10年という年を迎えることとなった。

ここに、研究所論集第10集をお届けする。当研究所では、1985年以降、「岐阜県の産業と経済」というテーマのもとで、総合研究をすすめ、これまで、岐阜県地域研究の方法論を特集した『地域経済』第7集「地域研究の理念と方法」(1987年)、岐阜県経済の発展過程を歴史的に分析した同第8集「岐阜県経済の史的分析」(1988年)、岐阜県経済の現状分析をおこなった同第9集「岐阜県産業・経済の構造変化」(1989年)を刊行してきた。

本第10集は、昨年度にひき続き、「岐阜県の産業と経済」の現状分析篇である。すなわち、高度成長から低成長への移行を主軸とした産業・経済・社会構造の変化のありさまを総合研究テーマとして設定し、特に未開拓の分野として、農林業・商業・金融、特定もしくは全体的な地場産業、企業・銀行の分析や経営方式の変化等についての研究をすすめることとし、各自自由に執筆していただいた。ご寄稿下さった各位に深く感謝したい。とりわけ、学外から、イビデン社長多賀潤一郎氏による、本研究所研究会における講演「天と地と人——企業の変革——」を掲載できたことに厚くお礼申し上げたい。論集第10集ということで、巻末に第1集以来の論文目録を掲載することとした。

なお、和田一雄教授は、本論集ご寄稿後の2月14日に急逝された。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

さて、本学においては、キャンパス一新の諸計画の実施や教学面の充実をはかり、近く創立25周年を機に、一層の躍進をめざしている。当研究所においても、類似の諸大学研究所を訪問調査し、それらを参考に、各種の面から、研究所のあり方について検討をすすめている。ご支援・ご協力のほどをお願いする次第である。

岐阜経済大学地域経済研究所

所長 丹羽 弘